

今日も「一丁あがり」

第23話

チームで素早く形にすることで、現場により多くの喜びを！の巻



皆さん、こんにちは！ セブナイレブンのおでんの中着餅が喉に詰まって気絶しかけたロボストス高垣でございます。さて、今日は弊社のメンバーを紹介しようと思います。とても温かい仲間恵まれて現在4人体制です。開発営業は、中学1年の頃からの親友で唯一無二の相棒K子さんと、農研機構で特別研究員を務めていた陽気なベトナム人（日本国籍申請中）のPDトーさん、僕の3人。取引先のネジ屋で窓口担当をしていた金髪カラコンのいまドキ女子S藤さんが生産管理を担っています。ロボストスの事業は「単品特注対応」と「リピート受注生産」が両輪なので、新規案件を素早く形にし、リピート依頼を効率的に回すことが肝要です。年齢も出身地も経歴も違うメンバーが不思議な縁で集まり、話が噛み合っているのかどうかよくわからない状況（笑）ですが、チームとして機能し始めた段階ではないかと。一人でできることには限界が

あって、仲間がいるからこそ実現できる仕事に喜びを感じますし、確実に毎日できることが増えていきます。ということ、このスピード感は結構すごいぞと思えた案件をご紹介しますように。

遠隔地でも工程が進む チーム力

依頼は「条間15cmで蒔いたホウレンソウの条間の除草を機械化した」と、弊社によく遊びに来てくれる仲良し農家のK藤さんから。この方は機械の使い方が上手で、ご自身でもガンガン改造されるし、畑はめちゃくちゃキレイ。今回はキユウホーの部品を活用して、K藤さんが思い描いた除草機を作り上げました。

ホームセン

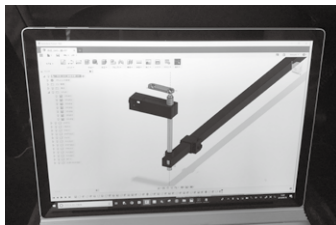


写真1：フライト中に速攻で設計！簡単な部品の組み合わせで考える

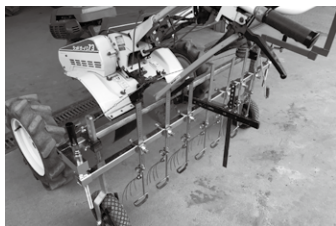


写真2：完成したK藤さんの要望を満たすホウレンソウ条間除草機



写真3：実際に使ってみたK藤さんより「なにコレ〜(笑)最高！最高！最高〜〜〜」と喜びの声



写真4：いつも仲良しのK藤さん夫妻。毎度、夕飯をご馳走になってます〜♪



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

ターで販売している30cmスケールにQホーとレーキを組み付ければ、畑の表層を引っ掻くにはちょうど良いテンションが得られます。製造業的視点で言えば、30cmスケールはステンレス鋼のばね材ですからね。目盛り付きで長さを調節しやすく、一石二鳥でしょう?! 試作に極力手間をかけないことはカスタマイズの常道。同様に組み付けた7本の除草部を畑の条件に合わせて上下に動かすため、ハンドルで高さ調節できるようにします。

動中の飛行機の中で設計しました。それを群馬にいる仲間が2D図面化して、協力工場5社に一齐に発注!! すべての業務をクラウドベースで構築しているの、通信環境があれば情報を共有して工程が進められます。かねてより夢見ていた遠隔地でも仕事が進む体制が徐々に具現化されてきたんですね。僕が群馬に戻った時には試作部品が仕上がっていて、現場で測定した日から一週間後にはホウレンソウ条間除草機が圃場で稼働していました。5人がかりで半日かかっていた圃場の除草作業が1人で30分で終わったそうです。

なんとかできないかと考え続けたK藤さんの素晴らしいアイデアを僕らがサポートすることで、何十年も困っていた状況を一週間で変えることができました。除草機は現在さらにカスタマイズしていますので、続報をお楽しみに! ということで、今日も一丁あがり〜♪